

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
（総合）研究報告書

がんの診療科DBとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用

研究分担者 寺原 敦朗 東邦大学医療センター大森病院放射線科 教授

研究要旨 放射線治療RISと診療科DBとの連携を構築することにより、入力省力化、報告書作成などにおける手間の軽減につながった。症例登録のfeasibility studyに参加し、問題点を検討して、データ項目の見直し等、その改善を図った。

A．研究目的

放射線治療RISと診療科DBとの連携を図り、データ入力の省力化を図った上で、実際に入力作業を行い、課題を検証して、その解決を図ること、並びに症例登録feasibility studyに参加し登録作業を行う過程でも問題点を検証し、本格運用に向けての準備を進めることを目的とした。

B．研究方法

放射線治療RISからcsv形式で書き出したデータをROGAD baseの診療科DBに取り込むため、DBの一部改変、スクリプトの追加を行った。日々の入力作業や構造調査項目の抽出作業に伴い、さらに改良を加えた。症例登録のfeasibility studyに参加、登録を行い、データ項目の見直し作業のためにJASTROデータベース小委員会を立ち上げて作業を行った。

（倫理面への配慮）

院内におけるデータの連携入力であり、またJASTRO放射線治療症例全国登録項目には個人が特定できる情報は含まれておらず、個人情報保護の点においても問題ない。

C．研究結果

RISとDBとの連携により、データの2重登録の手間は劇的に軽減し、報告文書の作成なども可能となった。構造調査のためのデータ抽出作業も省力化された。RISのデータをDBに転送する際に適切性をチェックすることで、データの信頼性を高めることも可能となった。

Feasibility studyで問題となったデータの統一性を図るため、以前からの懸案事項であった基本データ項目の見直し作業が行われ、その意義や定義、入力時の選択項目など全て検討し直し、必要に応じて新たな項目の追加も行った。

今後はデータベース委員会の承認を得て、JASTROによりauthorizeされたデータ項目として運用される予定である。

D．考察

日々のDBへの入力作業に伴う課題や問題点の検討およびその解決方法の模索、さらにはその入力データを用いた構造調査や症例登録に参加することによって明らかとなってきた問題点を解消するための項目の見直し等により、いよいよ全国症例登録の段階に進んできたと思われる。

E．結論

RISとDBとの連携の構築、日々のDBへの入力作業、Feasibility studyへの参加と、基本データベース項目の見直しにより、今後の症例全国登録の準備が整ってきた。

F．研究発表

1. 論文発表

寺原 敦朗.【脳腫瘍に対する治療の現状と展望】悪性グリオーマに対する放射線治療の現状と展望. 癌と化学療法, 2013, 40(10): 1278-1282.

2. 学会発表

寺原敦朗, 高橋秀樹, 武田稔之 放射線治療RISと診療科DBとの連携構築 日本放射線腫瘍学会第23回学術大会 2010/11 浦安市

G．知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし